

『12月の主な動き』

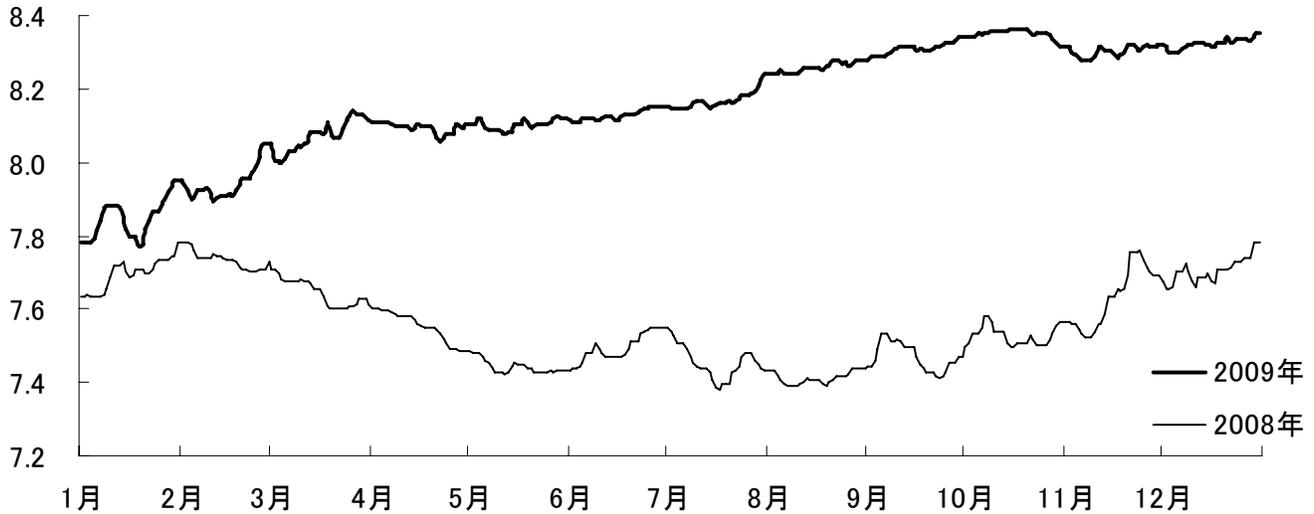
- 12月、ケツアル対ドル相場では、緩やかではあるもののケツアル安の傾向は続いた。
- 12月、消費者物価指数は年率で0.28%の下落となり3ヶ月続けてマイナスを記録した。
- 12月の海外送金は引き続き前年同月比で4.4%の減少となった。
- 29日、コロン大統領は、各部門における最低賃金を2010年1月1日より4ケツアル引き上げると発表した。

1. 主な経済指標

(1) 為替レート(中銀)

12月、2009年に入ってから継続していたケツアル安ドル高の傾向は継続したものの、変動幅は緩やかであった。12月31日時点で1ドル=8.35ケツアルとなった。2009年初頭に1ドル=7.78ケツアルであったケツアル対ドル相場は、ケツアル安ドル高の傾向が1年間を通して続き、今年一年間で7.36%のドル高ケツアル安となった。

ケツアル対ドル相場の推移:2008年-2009年

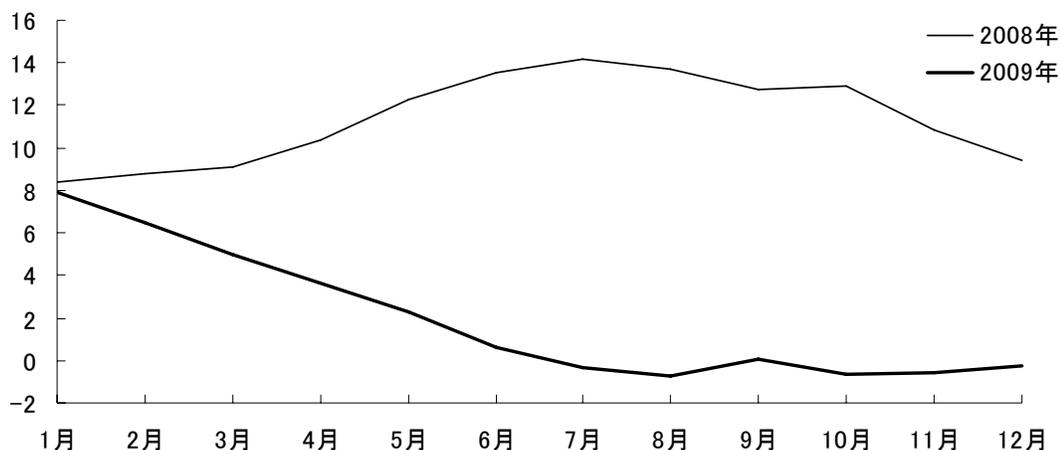


(出典:グアテマラ中央銀行)

(2) 消費者物価指数(国立統計院 INE)

12月、消費者物価指数は、前月比で0.05%の下落となった。また、前年同月比で0.28%の下落となり、年率での下落は7月より6ヶ月連続となった。2009年のインフレ率は-0.28%となり、これは1983年以來の低水準である。

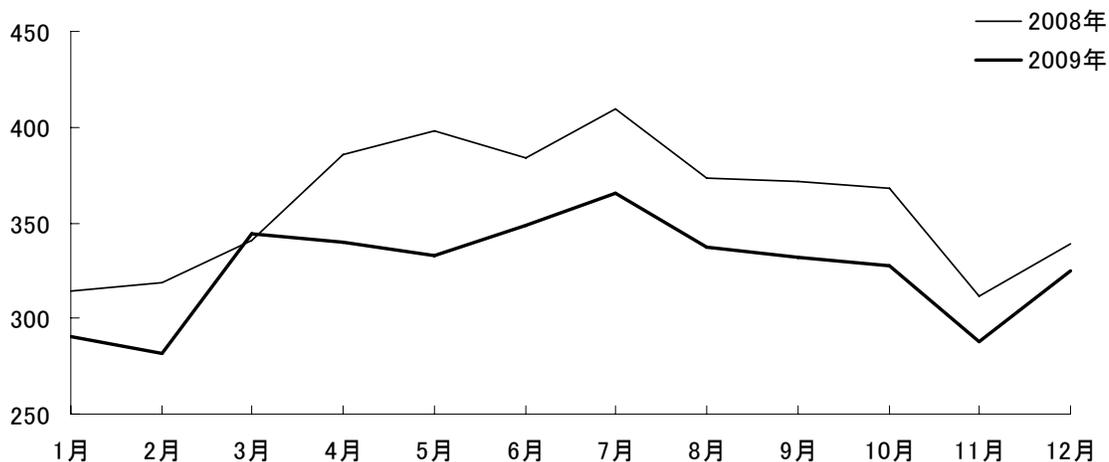
消費者物価指数(年率):2008-2009年



(出典:国立統計院)

基礎的食料品バスケット(Canasta Básica de Alimentos: 1世帯5.38人分のカロリーとタンパク質の摂取を満たす最低限の食料26品目)の価格は前月比でQ20.02(約2.39米ドル)下落し、Q1,897.32/月(約226.64米ドル)となった。また、基礎的生活バスケット(Canasta Básica Vital: 基礎的食料品バスケットに、生活に不可欠な財と最低限のサービスを加えたもの)の価格も、前月比でQ36.53(約4.36米ドル)下落し、3,462.26/月(約413.58米ドル)となった。

基礎的食糧品バスケット価格:2008-2009年



(出典:国立統計院)

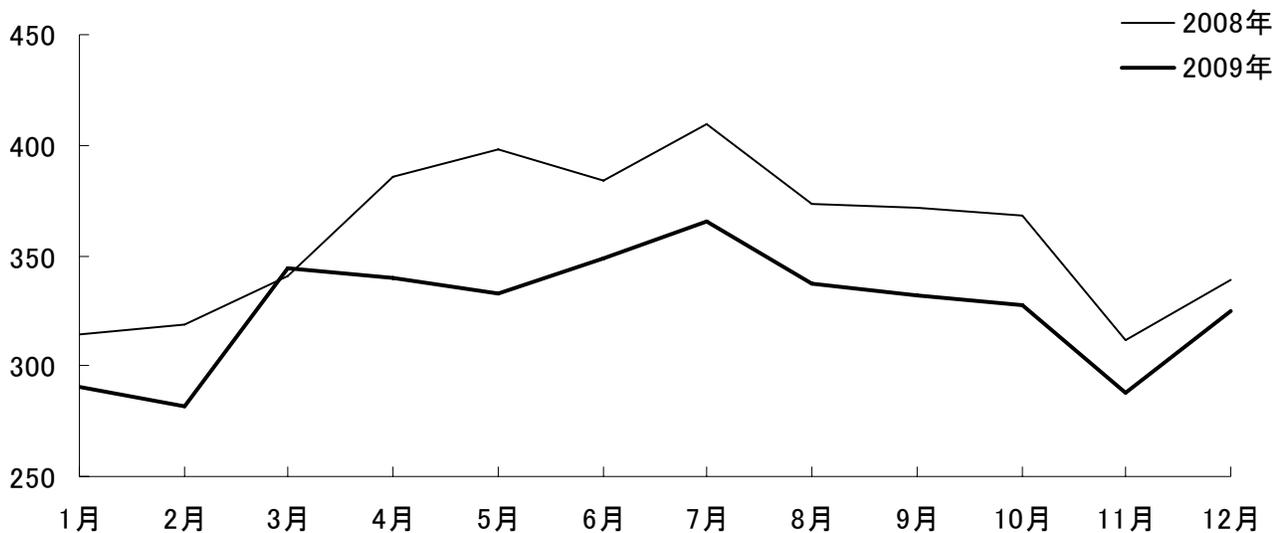
(3) 貿易統計(中銀)

近年高い成長率を維持していた当国の貿易は 2008 年以降の世界経済危機の影響により停滞し、2009 年の輸出総額は前年比 8.5%減、また輸入総額は 21%減となる見込みである。

(4) 海外送金(中銀)

米国における経済危機の影響により、12 月の海外送金も前年同月比 4.37%減の 324.5 百万米ドルに留まった。また、2009 年の海外送金総額は 3912.29 百万米ドルとなり、前年比 9.33%減となった。

海外送金額：2008-2009 年
(単位：百万米ドル)



(出典：グアテマラ中央銀行)

(5) 税収

財務省によると、2009 年の税収額は前年比 5.9%減の 31,389.9 百万ケツアル(約 3,749.6 百万米ドル)に留まった。また、2009 年のグアテマラ政府の歳入額も前年比 6%減の 33,449.1 百万ケツアル(約 3,995.6 百万米ドル)であった。グアテマラ政府の報告書によると、輸入にかかる付加価値税、関税及び前年比 2.1%減となった法人税・所得税からの税収額が減少した。

2. 国内経済トピックス

(1) 税制改革案の審議 2010年へ持ち越し

(イ) 17日、コロン大統領は政府が国会に提出していた(11月23日)税制改革案の成立が今年中には不可能であると認めたものの、調整は2010年も継続すると述べた。

(ロ) コロン大統領は更に、仮に税制改革案の成立が遅れれば、(税制改革案の一部である所得税及び連帯税の増税による)来年第一四半期の予測税収を失うことになる」と述べた。

(2) 2009年のグアテマラ経済成長率

(イ) 中銀の試算によると、世界経済危機の影響にも拘わらず、グアテマラ経済は2009年、0.6%のプラス成長を記録した。近年の同国経済成長率と比べると、成長の鈍化を認めないものの、中米五カ国中プラス成長を記録したのはグアテマラのみであった。また、中銀は2010年の経済成長率が5%前後になると予測している。

(ロ) グアテマラの国内総生産額の60%を占める製造業、民間サービス業、農業、狩猟、林業及び漁業は本年プラス成長を記録し、特に公的部門、金融仲介、保険、交通及び通信業等が高い成長率を記録した。

(ハ) マイナス成長を記録した部門の中で特筆すべきは、2009年に前年比13.4%のマイナス成長を記録した建設業である。その他、前年と比べマイナス成長を記録したのは、鉱業・採石業(1.10%)及び商業(1.6%)。また、建設業の停滞は2010年も継続する見込みで、24日、中銀は建設業のみ2010年も引き続きマイナス成長(7.1%)となるとの予測を発表した。

(3) 2009年の財政赤字額

財務省によると、2009年の歳入額は前年比6%減となったものの、歳出額は前年比8.3%増の43,703.2百万ケツアル(約5,220.5百万米ドル)となり、2009年の当国政府の負債総額は同年GDP比3.3%に達した。

(4) 対グアテマラ直接投資額の減少

(イ) 中銀と投資誘致事務局(Invest in Guatemala)は、2009年の対グアテマラ直接投資額は758.1百万米ドルで前年比9.5%減と発表した。パイス国際競争力プログラム(PRONACOM)総合調整役は2009年9月以降、特に食料、サービス及び観光業に従事している企業による投資額が増加したが、世界経済危機の影響を投資分野で受けたと発言した。

(ロ) しかしながら、新規投資、再投資が国内外企業によって行われ、鉱業分野では、Gold Corp及びグアテマラ・ニッケル会社による投資が行われた。また投資誘致事務局の報告によると、2009年パン、ミルク及び菓子の生産プラントの他、コロンビア企業が防弾ガラス組み立てのため85万ドルを投資した。

(ハ) また、2010年にはコロンビアの菓子及び小麦粉の会社がグアテマラに進出する事に興味を示している他、中国のコンソーシアムがグアテマラ産のゴムを購入する可能性がある。

(5) 気候変動による農作物収量の減少

(イ) 農牧食糧省(MAGA)は、病害や天候の悪化により、本年の白トウモロコシの収穫量は予測収穫量より10.8%減(119.4百万ケツアル相当の損害)の約120万トンとなるとの予測を発表した。他方、本年の予測収穫量比では減少したものの、昨年比では本年の収穫量は10.4%増になると予測している。

(ロ) 白トウモロコシ収穫量減少の主要因は2009年5月から8月に起きた干魃であり、影響を特に強く

受けたのはフティアパ県、ハラパ県及びサカパ県を含む、東部乾燥地帯である。また、キノコによる病害も収穫量減収の一因であった。キノコによる病害は2009年1月から3月の間、キチェ県イシュカン地区、アルタ・ベラパス県及びウエウエテナンゴ県にて収穫量減少に繋がった。その他要因としては、ケツアルテナンゴ県、キチェ県、エル・プログレソ県、バハ・ベラパス県における過剰降雨量、霜及び雹が挙げられる。

(ハ) 南東地域における気候変動及び病害により、トマトやチリの収穫量も減少した。また、2009年のコメの収穫量も2008年の収穫量を上回ったものの、グアテマラ・コメ協会は収穫量が干魃の影響により予想以下であったと発表した。

3. 対外経済トピックス

EUへのバナナ関税額の減額

モラレス経済相は現行 1 トン当たり 176 ユーロの輸入関税が課せられている中南米産バナナの関税額が148 ユーロまで減額されたと発表した。また、EUの発表によると、バナナ関税は今後 8 年間の間に114 ユーロまで段階的に削減される見込みである。

(了)